

○計画期間：令和2年4月～令和7年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点（令和5年3月31日時点）の中心市街地の概況

令和2年3月に認定を受けた第3期計画では、「高崎の活力と新しい文化を創造・発信する『賑わい・交流・文化都心』の形成」という基本理念のもと、高崎アリーナ、高崎芸術劇場、Gメッセ等の大規模集客施設に集客力のあるイベントを実施することで、広域からの交流人口の一層の増加を図るとともに、駅周辺に集まった多くの来訪者を中心市街地全体に呼び込めるよう努め、さらには、まちなかの居住の誘導・促進により中心市街地の活力の源となる居住人口の増加と地域コミュニティの維持・増進を図ることを目的としている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部のイベントは開催の中止・縮小等の対応をとったが、基本的には、徹底した新型コロナウイルス感染症対策をしながら、「高崎まつり・高崎山車まつり」、「高崎だるま市」、「高崎えびす講市」、「高崎音楽祭」、「ストリートライブ in 高崎 どこもかしこも」等のイベントを開催し、多くの人々がまちなかに集まり賑わい創出に結びついたと思われる。

また、中心市街地の居住人口は減少したものの、民間によるマンション建設が進んでおり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本市のような地方への移住志向が高まっていることから、人口増が見込まれる。さらには、地価の上昇からもまちなかの賑わいは回復傾向にあると思われる。

今後は、その都度の状況に応じた各種ガイドラインに基づくイベントの開催を促進し、中心市街地への来訪機会を設け、中心市街地の居住者やイベント目的の来訪者が、まちなかを回遊できるよう「お店ぐるりんタクシー運行事業」や「まちなかコミュニティサイクル推進事業」等を継続して実施し、また、「まちなか商店リニューアル助成事業」等で魅力あるお店や景観を整備することにより、中心市街地の活性化に努めて行きたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（1）居住人口

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	令和元年度 （計画前年度）	令和2年度 （1年目）	令和3年度 （2年目）	令和4年度 （3年目）	令和5年度 （4年目）	令和6年度 （5年目）
人口	28,234 人	28,436 人	28,473 人	28,415 人	人	人
人口増減数		202 人	37 人	△58 人	人	人
自然増減数		△50 人	△96 人	△103 人	人	人
社会増減数		252 人	133 人	45 人	人	人
転入者数		1,650 人	1,748 人	1,591 人	人	人

※社会増減数は、人口増減数－自然増減数として算出している。

※転入者は、市外から区域内の町への異動件数とし、市内区域外からの転居は含めない。

(2) 地価

(単位：円/㎡)

(主な中心市街地区 域の地点)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年 度(1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
八島町 63 番 1 外	485,000	500,000	505,000	509,000		
連雀町 85 番 1 外	208,000	207,000	208,000	208,000		
通町 52 番 1	199,000	201,000	203,000	206,000		
栄町 11 番 10	361,000	373,000	382,000	386,000		

2. 令和4年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

「都市集客施設の利用者数の合計値」は、昨年度を下回る結果となったが、イベントの参加者は増加している。依然として、新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、回復傾向であるため、魅力あるイベントを開催し、目標達成に向け取り組んでもらいたい。

「歩行者・自転車通行量(休日)」は、昨年度に引き続き実施できなかったが、まちなかを訪れる人は増えていると思われる。予定されているイベントが実施されれば、多くの人々がまちなかに集まると思われるので、「高崎市まちなか商店リニューアル助成事業」、「お店ぐるりんタクシー運行事業」、「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」、「高崎まちなかオープンカフェ事業」等を官民が連携して継続実施することにより、まちなかの魅力や回遊性の維持・向上に努めてもらいたい。

「区域内居住人口」においては、昨年度に比べ、減少したが、複数のマンションが建設中であることから、「住みたい街」になるよう、子育てや福祉の充実をアピールし、また、「働きたい街」と思われるよう企業誘致を積極的に行い人口の増加を図ってもらいたい。

結びに、中心市街地においては、依然として、郊外や近隣の大型店舗との競争、少子高齢化の進展、経済産業構造の変化、駐車場の問題等により、中心市街地の求心力・集客力の低下が課題となっているので、今後も、官民一体となった中心市街地の活性化に向けた取り組みを期待する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
来訪者で賑わう集客拠点ゾーンの形成	都市集客施設の利用者数の合計値	883,107 人/年 (H30)	2,235,000 人/年 (R6)	1,199,858 人/年 (R4)	B	2	2
市民や来訪者が楽しく回遊できる中心市街地の形成	歩行者・自転車通行量 (休日)	49,933 人/日 (H30)	58,800 人/日 (R6)	-	-	-	-
快適・便利なまちなか居住が享受できる中心市街地の形成	区域内居住人口	28,296 人 (H30)	30,100 人 (R6)	28,328 人 (R4)	B	①	①

＜基準値からの改善状況＞

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

＜目標達成に関する見通しの分類＞

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「都市集客施設の利用者数の合計値」については、昨年度を下回ったが、イベントによる利用者については、大規模な集客が見込める高崎アリーナや高崎芸術劇場では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも増加傾向となっている。今後は、新型コロナウイルス感染症対策による影響が少なくなることから、高崎アリーナ、高崎芸術劇場、Gメッセ等の大規模集客施設に集客力のあるイベントを実施し、目標の達成を目指す。

「歩行者・自転車通行量（休日）」については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、適正な通行量調査が見込めないため令和4年度も実施を見送った。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による影響が少なくなると見込まれ、人々がまちなかを来訪する機会が増えることが予想されるため、個店の魅力アップを推進する「高崎市まちなか商店リニューアル助成事業」、中心市街地の回遊性と賑わいの向上を図る「お店ぐるりんタクシー運行事業」、「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」などを継続実施することで、通行量の回復・増加による目標の達成を目指す。

「区域内居住人口」については、昨年度より減少したが、現在も複数のマンション建設が進行中であり、令和6年度までに4棟完成予定となっている。少子高齢化で人口減少が進むなか、新型コロナウイルス感染症による生活環境の変化による地方への移住志向が高まっていることから、交通の利便性や託児などの子育て環境の充実など住んでみたいと思われる魅力あるまちづくりを進め区域内居住人口を増加させていきたい。また、建築要件の緩和を制度化した「高崎市居住誘導策」など人口増加のための施策を引き続き展開することにより、目標の達成を目指す。

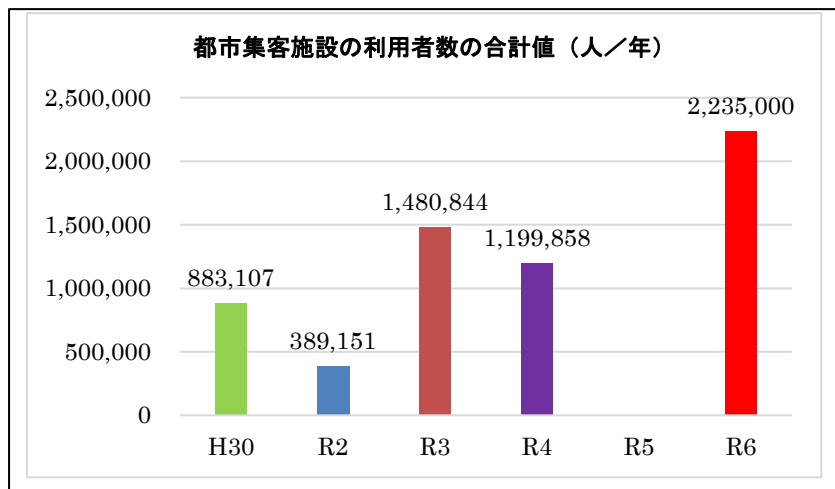
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「都市集客施設の利用者数の合計値」※目標値設定の考え方は認定基本計画 P. 42～P. 43 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
H30	883,107 (基準年値)
R2	389,151
R3	1,480,844
R4	1,199,858
R5	
R6	2,235,000 (目標値)

※調査方法：利用者数調査（独自調査）

※調査月：令和5年4月

※調査主体：高崎市

※調査対象：群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、美術館、タワー美術館、高崎アリーナ、高崎芸術劇場、Gメッセ群馬、高崎市東町市民活動センター（整備予定）

〈分析内容〉

Gメッセ群馬を除く、6施設の令和4年度の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの867,968人となり、昨年度の565,389人と比較して、302,579人増加した。

一方、Gメッセ群馬の利用者は、昨年度、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種センターとして長期間利用されたことにより、915,455人と大幅に増加したが、令和4年度は、イベントによる利用者は増加したもののワクチン接種センターとしての利用期間が短くなったため、331,890人ととどまり、昨年度と比較して、583,565人減少した。

この結果として、全体の利用者は、昨年度と比較し、280,986人の減少となってしまったが、少しずつであるもののイベントによる利用者が増加している様子が伺える。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高崎音楽祭（高崎音楽祭委員会）

事業実施期間	平成2年度～【実施中】
事業概要	高崎芸術劇場を中心として、群馬音楽センターや高崎シティギャラリーなど中心市街地の至るところで、クラシックやジャズなど、期間中様々なジャンルの音楽イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎芸術劇場におけるイベント開催に伴う効果として、事業目標値は363,000人の内数（令和4年度の年間来場者数313,191人）としている。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しない状況下で、19公演の開催、延べ15,486人の参加があった。

況	昨年度と比較し、3公演、2,437人の増加となった。
事業の今後について	音楽でまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

②. 企画文化事業（高崎市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	高崎の文化性、ブランド力の中核となる群馬交響楽団の演奏会や国内外のエンターテインメント性の高い芸術鑑賞の機会とともに、市民の文化活動の成果を発表する場を提供することで広域からの集客向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎芸術劇場におけるイベント開催に伴う効果として、事業目標値は363,000人の内数（令和4年度の年間来場者数313,191人）としている。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しない状況下で、64事業の開催、延べ50,876人の参加があった。 昨年度と比較し、15事業、20,349人の増加となった。
事業の今後について	音楽や芸術文化活動によってまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

③. 群馬交響楽団定期演奏会（公益財団法人 群馬交響楽団）

事業実施期間	昭和20年度～【実施中】
事業概要	“音楽のある街 高崎”を代表する群馬交響楽団によるコンサートを高崎芸術劇場で年間10回程度実施することにより、高い芸術鑑賞の機会を創出し、集客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	舞台芸術創造活動活性化事業（文化庁）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎芸術劇場におけるイベント開催に伴う効果として、事業目標値は363,000人の内数（令和4年度の年間来場者数313,191人）としている。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しない状況下で、10回の開催、延べ13,561人の参加があった。 昨年度と比較し、事業回数は変わらないが、410人の増加となった。
事業の今後について	音楽でまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

④. 高崎芸術劇場集客推進事業（高崎市、公益財団法人 高崎財団、民間事業者等）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	新たな都市集客施設として開館した高崎芸術劇場において、行政と民間が連携して様々な事業を開催し、まちなかの賑わいにつなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎芸術劇場におけるイベント開催に伴う効果として、事業目標値は363,000人の内数（令和4年度の年間来場者数313,191人）としている。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しない状況下で、251事業の開催、延べ169,456人の参加があった。 昨年度と比較し、98事業、46,677人の増加となった。
事業の今後について	音楽でまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

いて	
----	--

⑤. 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（再開発組合）

事業実施期間	平成 22 年度～令和 10 年度【実施中】
事業概要	高崎駅東口に店舗、オフィスなどの都市機能を備えた再開発ビルを整備することで、隣接する高崎芸術劇場と一体で、中心市街地の新たな賑わい拠点を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等（高崎駅東口栄町地区））（国土交通省）（令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、再開発ビル内の子ども図書館、キッズスペースなどのパブリックゾーンの利用者数 37,000 人の内数としている。 本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響による社会情勢等を踏まえ、施設計画の見直しを行った。 その結果、計画からホテルを除くなどの見直しを行い、また、事業実施期間を令和 10 年度までとした。 現在は、基本計画策定に向け準備を行っているところである。
事業の今後について	今後は、再開発準備組合で基本計画の策定を行い、法定再開発組合の設立を目指し、権利者間での協議を進めていく。

⑥. 再開発と一体となったまちづくり検討業務（高崎市）

事業実施期間	令和 5 年度～令和 6 年度【未】
事業概要	高崎駅東口に建設する再開発ビルに子ども図書館やキッズスペース、ギャラリー等を整備することにより、中心市街地における多世代の市民の来訪や交流を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（高崎駅周辺地区）（令和 5 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、再開発ビル内の子ども図書館、キッズスペースなどのパブリックゾーンの利用者数 37,000 人の内数としている。 現在は、再開発事業自体の進捗に合わせて準備を行っているところである。
事業の今後について	今後は、再開発事業の進捗に合わせて基本設計を行い、事業着手を早期に実現する。

⑦. 高崎市東町市民活動センター建替事業（高崎市）【令和 4 年度追加】

事業実施期間	令和 2 年度～令和 6 年度【実施中】
事業概要	老朽化した既存建物を建替え、勤労者の福利厚生や地域住民のレクリエーション活動等のための会議室、体育館等を整備し、中心市街地における多世帯の市民の来訪や交流を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（高崎駅周辺地区）（令和 3 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業が、施設計画の見直しにより、計画期間内の完成が見込まれなくなったため、これを補完するためにこの事業を追加した。 当該事業は計画どおりに進捗しており、令和 4 年度に基本設計が完成し、事業の早期完成に向けて進めているところである。
事業の今後について	今後は、基本設計に基づき、実施設計を進め、早期に工事着手できるよう進める。

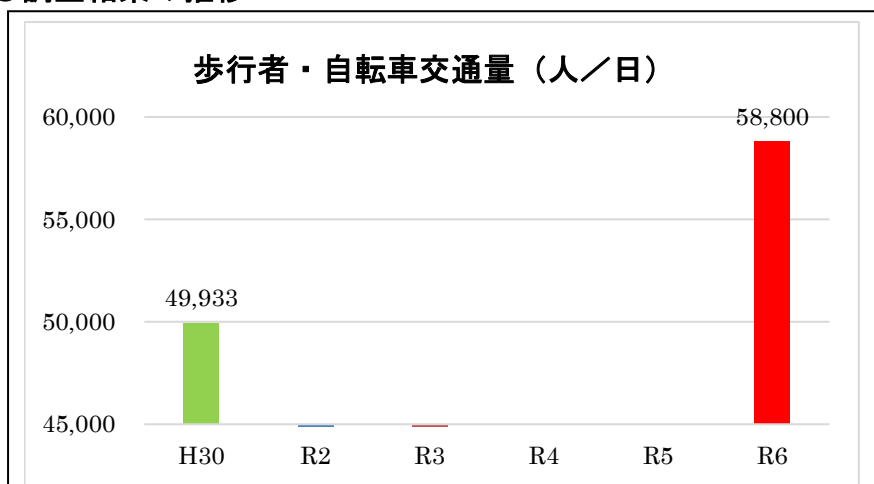
●目標達成の見通し及び今後の対策

「都市集客施設の利用者数の合計値」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、イベントの中止、規模を縮小しての開催となったものもあるが、昨年度よりもイベントの利用者数は、少しずつであるものの増加傾向となっている。

今後は、新型コロナウイルス感染症の状況を把握しつつ、高崎芸術劇場、高崎アリーナ等の大規模集客施設でのイベントの誘致や、文化・スポーツイベントを開催し中心市街地の集客に努めていきたい。

(2)「歩行者・自転車通行量(休日)」※目標値設定の考え方は認定基本計画 P. 44～P. 49 参照

●調査結果の推移



年	(人/日)
H30	49,933 (基準年値)
R2	未実施
R3	未実施
R4	未実施
R5	
R6	58,800 (目標値)

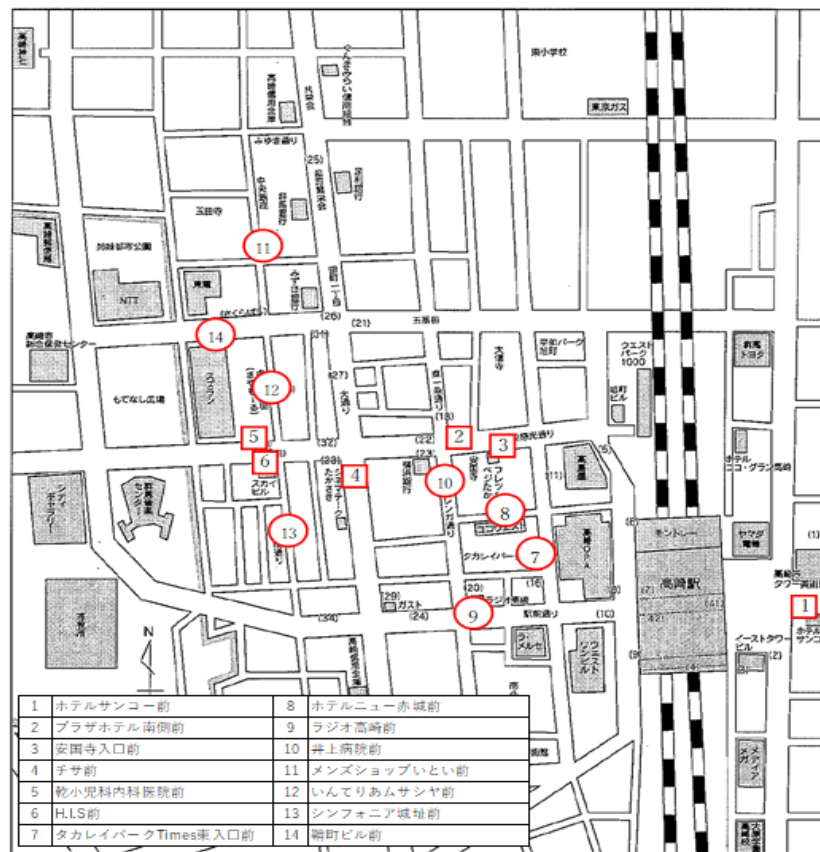
※調査方法：中心商店街及び高崎駅東口の14地点で10時から20時まで計測

※調査日：毎年度10月末の休日

※調査主体：高崎市

※調査対象：中心市街地14地点における歩行者及び自転車の通行量

(次ページ図中 □印：2期計画からの継続6地点、○印：新規8地点、合計14地点)



(単位：人)

	平成 30 年度 (基準値年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)
地点 1	4,688	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大防 止のため未実 施	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大防 止のため未実 施	新型コロナウイルス感染症 の感染拡大防 止のため未実 施		
地点 2	2,420					
地点 3	3,572					
地点 4	1,595					
地点 5	3,740					
地点 6	2,732					
地点 7	10,638					
地点 8	5,596					
地点 9	5,946					
地点 10	2,258					
地点 11	1,632					
地点 12	2,138					
地点 13	982					
地点 14	1,996					
合計	49,933					

〈分析内容〉

令和4年度も、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため適正な調査が見込めないため実施できなかったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛、イベント開催の中止・縮小等もあり、歩行者・自転車通行量も大きく影響を受けたと推測される。

そのような状況下で、徹底した新型コロナウイルス感染症対策をしながら、「高崎まつり・高崎山車まつり」、「高崎だるま市」、「高崎えびす講市」、「高崎音楽祭」、「ストリートライブ in 高崎 どこもかしこも」等のイベントが開催され、昨年度と比べると歩行者・自転車通行量は増加傾向にあると推測される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. お店ぐるりんタクシー運行事業（高崎市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	中心市街地を循環する、乗り降り自由で無料の交通手段を整備することによりさらなる回遊性向上を図るとともに、交通弱者支援にもつなげる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1日あたり100人としている。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が出始めた令和2年度と比べ、約2割増え、1日あたり86人まで回復した。
事業の今後について	まちなかの賑わいと回遊性をさらに向上させるために事業を継続していく。

②. 空き店舗等情報発信事業（高崎市）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】
事業概要	空き店舗に関する様々な情報を発信する総合サイトを活用して、空き店舗所有者と出店希望者のマッチングを支援することにより、中心市街地の商業活性化を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1日あたり1,320人としている。中心市街地の空き店舗数は、空き店舗情報の活用により、昨年度の16店舗に6件の新規出店あり、まちなかの商業活性化や回遊性向上に寄与した。一方、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、空き店舗は新たに9件増え19店舗となった。
事業の今後について	まちなかの商業活性化を推進する事業として継続していく。

③. 高崎市まちなか商店リニューアル助成事業（区域内外装工事分）（高崎市）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の店舗等で、通りに面した外装工事を行う際の費用の一部を支援することにより、店舗の魅力アップとまちなみの景観整備につながり、集客力の向上と賑わいの創出に寄与する。

国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和２年４月～令和７年３月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	この事業は、歩行者・自転車通行量の増加を目標としている。令和４年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響がある中で、中心市街地内で本事業の制度を活用した店舗のうち、その約３割、３６件が外装工事を行った。昨年度より７件増加し、まちなかの賑わいの創出に寄与している。 また、令和４年度から制度の３回目の申請を可能とし、併せて郵送やインターネット申請も認め、さらには申請期間を約２週間に延長したことで、より利用しやすい制度へと改善した。
事業の今後について	引き続き、個店の魅力のアップのために事業を継続していく。

④. 高崎駅東口第九地区市街地再開発事業（高崎駅東口第九地区市街地再開発事業者）

事業実施期間	平成２７年度～令和２年度【済】
事業概要	当該地区に土地の高度利用を促進するため、共同住宅、駐車場、ペデストリアンデッキ等を整備し、高崎駅東口周辺の居住人口の増加と駐車場不足の解消、歩行者の回遊性向上に対応する。
国の支援措置名 及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（平成２７年度） 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成２８年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、新規住民の増加に伴う歩行者・自転車通行量における効果を１日あたり１,１６６人としている。令和２年度の事業完了によりマンションへの入居が進み、６０２人（住民登録の人口をもとに算出）分の効果が見られた。
事業の今後について	交通の利便性や託児などの子育て環境の充実など住んでみたいと思われる魅力あるまちづくりを進め、空室への入居を促し、居住人口や歩行者・自転車通行量の増加につなげる。

⑤. 高崎市居住誘導策（高崎市）

事業実施期間	平成３０年度～【実施中】
事業概要	高度利用地区の指定を行うことにより、容積率の緩和などを制度化することで、集合住宅等の立地を促進し、中心市街地の活力の源である居住人口とまちなかの通行量の増加を図る。
国の支援措置名 及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、１日あたり１,７５０人を見込んでいる。令和４年度は、高崎市居住誘導策の活用実績はなかったものの、１棟のマンションが完成し、令和２年度から令和３年度までに完成した３棟と合わせ、７０６人（住民登録の人口を基に算出）分の効果が見られた。
事業の今後について	現段階では当該制度を活用した事例がないため、民間事業者の活用促進を図り、土地の有効活用や建物の高層化などの住宅整備を進めていく。

⑥. 多機能型住居住宅借上事業（高崎市）

事業実施期間	平成２９年度～【実施中】
--------	--------------

事業概要	多世代間交流を目的に整備された民間管理の多機能型住居において、高齢者や介護士、保育士、看護師等の職業を目指す学生等が入居できるよう、市が住宅借上等の支援を行うことで、まちなかの居住人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、入居者数の維持による歩行者・自転車通行量における効果を160人としている。令和4年度末で154人（住民登録の人口を基に算出）分の効果が見られた。
事業の今後について	学生等の年度変わりでの入退居に対して、入居者の維持が図れるよう努めていく。

⑦. 高崎まちなかオープンカフェ推進事業（高崎まちなかオープンカフェ推進協議会）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	都市再生特別措置法の改正を契機に歩道上でオープンカフェが行えるようになったことから、まちなかに新たな回遊性と賑わいを創出するため実施している事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年4月～令和7年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、1日あたり20人としている。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症や猛暑の影響を受け、1日あたり13人程度の利用にとどまったが、昨年度より利用者は増加している。
事業の今後について	まちなかの賑わいの創出を図っていくために協議会と連携しながら、参加店舗増、周知活動等を継続的に進めていく。

⑧. 中央銀座アーケード街活性化事業（高崎市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	再整備した中央銀座アーケード街において、各種イベントを実施することにより、中心商店街の活性化に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	令和4年度のイベントは、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止にせざるを得なかった。
事業の今後について	まちなかの賑わいの創出に寄与する事業として、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、実施していく予定。

⑨. 群馬交響楽団定期演奏会（公益財団法人 群馬交響楽団）

事業実施期間	昭和20年度～【実施中】
事業概要	“音楽のある街 高崎”を代表する群馬交響楽団によるコンサートを高崎芸術劇場で年間10回程度実施することにより、高い芸術鑑賞の機会を創出し、集客を図る。

国の支援措置名 及び支援期間	舞台芸術創造活動活性化事業（文化庁）（令和２年度～令和６年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、１日あたり250人の内数としている。令和４年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しない状況下で、10回の開催、延べ13,561人の参加があり、昨年度と比較し、410人増加し、まちなかの回遊性向上に寄与した。
事業の今後について	音楽でまちなかの賑わいを創出する事業として今後も継続していく。

⑩. ストリートライブ in 高崎 どこもかしこも
（ストリートライブ in 高崎 どこもかしこも実行委員会）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	市内外から集まった様々なジャンルのミュージシャンが中心市街地の約20箇所で同時に路上ライブを行い、まちなかのどこもかしこもが音楽で溢れることにより、中心市街地の賑わいの創出を図る。
国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和２年４月～令和７年３月）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として、１日あたり250人の内数としている。令和４年度は、中心市街地の16箇所で、約130組のミュージシャンが、ポップスやロック、歌謡曲などを披露し、多くの来訪者が多彩なステージを楽しみ、まちなか全体への集客に大きく貢献した。
事業の今後について	まちなかを歩いて回遊する機会を創出する事業として継続して実施する予定。

⑪. 高崎菓子まつり（高崎菓子業組合）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	市内の菓子職人が腕を振るったお菓子を一同に味わうことができるほか、プロが教える菓子づくり体験などを実施することにより、市内外からの多くの誘客を図り、まちなかの賑わいの創出につなげていく。
国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和２年４月～令和７年３月）
事業目標値・最新値及び達成状況	新型コロナウイルス感染症対策をとりつつ、従来どおりの集客型のイベントとして、令和４年10月22日にもてなし広場にて開催した。菓子作り体験や、期間限定商品やワンコイン菓子販売を実施した。その結果、約6,000人の来客があり、昨年度と比較して3倍の集客があり、まちなかの賑わいの創出に寄与した。
事業の今後について	まちなかの賑わいの創出に寄与する事業として、今後も継続実施していく予定。

⑫. たかさきキッズパーク（たかさきこどもまつり実行委員会）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の総合保健センター内に世界の優れたあそび道具を集めた全天候型のあそび場を設置することにより、親子連れなど多くの人々に楽しんでもらうとともに、まちなかを訪れる機会を創出し、活性化につなげていく。
国の支援措置名	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和２年４月～令和７年３月）

及び支援期間	
事業目標値・最新値及び達成状況	本事業は、まちなかの賑わいの創出や回遊性向上に寄与しているが、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となった。
事業の今後について	より多くの人がまちなかを訪れる機会を創出する事業として、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、実施していく予定。

⑬. 高崎駅東西回遊促進事業（高崎市、公益財団法人 高崎財団）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	高崎駅東口に新たに整備された都市集客施設を訪れた人を、駅西口の大型店や商店街へ誘引するため、駅東西の大型ビジョンでの商店街等のPR、コンサート時の商店街や飲食店の情報チラシの折込などを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、歩行者・自転車通行量における効果として1日あたり120人としている。令和4年度は、駅東西の大型ビジョンの活用や学生ボランティアによるチラシの配布等で周知を図り、1日あたり58人（数値目標の積算による算出）の効果が見られた。
事業の今後について	中心市街地全体の賑わいと回遊性を向上させるため、今後、関係各所と連携しながら様々な事業に取り組んでいく。

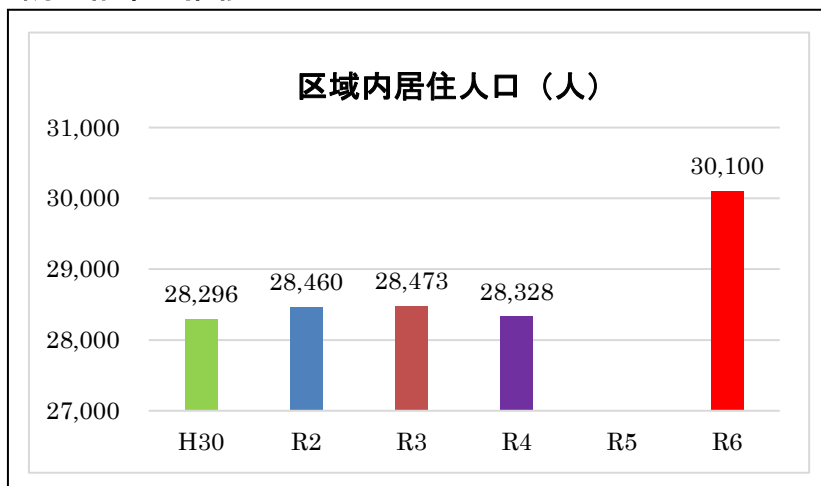
●目標達成の見通し及び今後の対策

「歩行者・自転車通行量（休日）」については、昨年度に引き続き調査を実施できなかったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための外出自粛等の規制が緩和され、通行量は増加傾向にあると推測される。

今後は、高崎アリーナ、高崎芸術劇場、G メッセ群馬等の都市集客施設でのイベント開催による集客と「お店ぐるりんタクシー運行事業」、「まちなかコミュニティサイクル推進事業」等の取り組みによる回遊性向上の効果により、駅周辺の賑わいを中心市街地全体へ波及させ、通行量の回復・増加を目指していく。

(3)「区域内居住人口」※目標値設定の考え方は認定基本計画 P. 50～P. 51 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H30	28,296 (基準年値)
R2	28,460
R3	28,473
R4	28,328
R5	
R6	30,100 (目標値)

※調査方法：高崎市住民基本台帳から対象人数を抽出

※調査年度：令和4年度（令和5年3月31日現在）

※調査主体：高崎市

※調査対象：中心市街地の区域を構成する36町の住民基本台帳上の人口

〈分析内容〉

中心市街地では、居住者の高齢化、少子化や単身世帯の増加により多くの町で人口が減少している。一方、「高崎駅東口第九地区市街地再開発事業」で整備した高層タワーマンションや民間高層マンションの完成した町では、人口が増えており、事業の効果が現れている。

今後は、土地の有効活用や建物の高層化を誘導する「高崎市居住誘導策」の活用を促進し、子育て世代の増加を目指し、少子化問題の解消や地域コミュニティの維持を図り、居住人口の維持、増加を図りたい。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高崎駅東口第九地区市街地再開発事業（高崎駅東口第九地区市街地再開発事業者）

事業実施期間	平成27年度～令和2年度【済】
事業概要	当該地区に土地の高度利用を促進するため、共同住宅、駐車場、ペデストリアンデッキ等を整備し、高崎駅東口周辺の居住人口の増加と駐車場不足の解消、歩行者の回遊性向上に対応する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）（国土交通省）（平成27年度） 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成28年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、整備による居住人口における効果を583人としている。令和4年度末で301人（住民基本台帳による数値）の入居となっている。単身世帯や少人数世帯の入居が多い傾向にある。
事業の今後について	交通の利便性や託児などの子育て環境の充実など住んでみたいと思われる魅力あるまちづくりを進め、空室への入居を促し、居住人口や歩行者・自転車通行量の増加につなげる。

②. 高崎市居住誘導策（高崎市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	高度利用地区の指定を行うことにより、容積率の緩和などを制度化することで、集合住宅等の立地を促進し、中心市街地の活力の源である居住人口とまちなかの通行量の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、居住人口における効果を 5 棟 875 人としている。令和 4 年度は、高崎市居住誘導策の活用実績はなかったものの、1 棟のマンションが完成し、令和 2 年度から令和 3 年度までに完成した 3 棟のマンションと合わせ、令和 4 年度末で 353 人（住民基本台帳による数値）となっている。
事業の今後について	現段階では当該制度を活用した事例がないため、民間事業者の活用促進を図り、土地の有効活用や建物の高層化などの住宅整備を進めていく。

③. 多機能型住居住宅借上事業（高崎市）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	多世代間交流を目的に整備された民間管理の多機能型住居において、高齢者や介護士、保育士、看護師等の職業を目指す学生等が入居できるよう、市が住宅借上等の支援を行うことで、まちなかの居住人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値は、入居者数約 80 人を維持するものとしている。令和 4 年度の入居者は 77 人で、目標値を下回ったものの看護師等を目指す女性の入居者が増加し、昨年度より改善している。
事業の今後について	学生等の年度変わりでの入退居に対して、入居者の維持が図れるよう努めていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「区域内居住人口」については、昨年度よりも減少したが、評価指標の基準値を上回っている。令和 5 年度に 2 棟のマンションが完成する予定となっており、それ以外でも複数のマンションが建設中であることから、目標達成は可能だと思われる。

今後も、官民が連携してマンションなどの住宅整備を引き続き推進するとともに、「地域活動推進補助事業」などの継続実施により、子育て世代や高齢者を含めた多くの人にとって住みたい、住み続けたいと思えるような賑わいあふれる街づくりを実施し、区域内居住人口の増加を図っていきたい。